

平成23年度教育委員会事務点検評価(平成22年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

整理番号 25

事務事業の名称	校舎空調設備改修事業		担当部課	教育委員会 生涯学習部 教育総務課	
実施期間	平成 13 年度 ~		電話番号	04 - 2953 - 1111 内線 5636	
総合振興計画における位置づけ	5章	人を育み文化を創造するまちをめざして	実施計画(H22~24)事業名	校舎空調設備改修事業	
	2節	次世代教育の充実			
	2項	教育環境の充実	個別計画等の名称		
	2目	教育施設の充実			
実施根拠	防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律				
事業区分	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 法定受託事務+自治事務				
事業開始の背景等	小学校の校舎の空調については、従来より温度保持工事を実施し、暖房機能は備わっていたが、夏季における学習環境の改善を図るために、既存の老朽化した空調設備を更新するにあたり、新たに冷房機能を加えて、除湿温度保持(冷暖房)工事を実施してきている。				

2 事務事業の目的・内容

目的	新たに冷房機能を加えた形で校舎の除湿温度保持(冷暖房)工事を実施し、夏季における学習環境の改善を図る。	
対象	小中学校の校舎	
活動内容	既存の老朽化した空調設備を更新するにあたり、新たに冷房機能を加えて、除湿温度保持(冷暖房)工事を実施している。	
	(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価) 継続
環境配慮	燃料をクリーンエネルギー仕様の設備へと更新を図る。	
実施形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他()	

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	目標値の根拠・考え方
(実施動向指標)	空調設備改修工事実施学校数	目標値	校	2	2	2	2	毎年2校ずつ実施する
		実績値		2	2	1		
		達成率		100.0%	100.0%	50.0%		
		達成率						
(成果指標)	空調設備改修率	目標値	校	27	27	26	25	小中学校25校に空調設備(冷暖房)を整備する
		実績値		13	14	15		
		達成率		48.1%	51.9%	57.7%		
		達成率						

4 事業費

区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	
	千円	302,500	527,800	192,004	190,846	
経費	直接費	千円	263,369	456,745	165,553	
	財源内訳	国県支出金	千円	169,618	263,035	93,348
		その他特定財源	千円		180,000	36,000
		一般財源	千円	93,751	13,710	36,205
		人件費	人	0.60	0.70	0.70
	人件費	千円	5,504	6,437	6,294	
事業費計(直接費決算額+人件費)		千円	268,873	463,182	171,847	
効率性指標	指標名	空調設備改修の校数	校	2	2	1
	単位コスト	1校当りの経費	千円	134,437	231,591	171,847

5 事務事業の評価

◆第一次評価(担当課による評価)

項目	評価の視点	評価	評価理由
個別評価	必要性	5 前年度	夏季の学習環境の改善を図る上で、校舎の冷暖房機能の確保の必要性は高く、児童生徒と保護者からのニーズも高い。
	有効性	4 前年度	除湿温度保持(冷暖房)工事の実施により、快適な学習環境の確保が図られた。平成22年度末において冷暖房機能を備えた空調設備の改修は26校中15校が完了している。
	効率性	4 前年度	除湿温度保持工事(冷暖房)により、集中暖房から個別空調に改修することにより、未使用室の運転制御につながり、燃料費の節減を図った。
<5段階評価> 5:極めて高い 4:高い 3:普通 2:低い 1:かなり低い			
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了		
市民や議会からの要望を踏まえ、改修の件数を年2校とし、残り10校の早期完了に向けて改修を推進する。			

6 その他(学識経験者の意見等)

立教大学・環境教育センターの阿部治氏は、人類滅亡の時期が2030年である可能性を指摘していた。温暖化を否定する向きもあるが、猛暑日が続く夏は、今後とも継続するだろう。もはや、冷房は必需品になっている事だけを指摘します。